平成26年度箕輪西小学校グランドデザイン

児童の様子

〇全校児童９０名。各学年単級の小規模校である。
〇子どもたちは全員徒歩通学。

良 さ

〇素直で思いやりのある子どもが多い。
〇少人数なので、互いに顔や名前がわかっており、学年の枠をこえたかかわりが多く見られる。

課 題

〇小さい頃から同じ顔ぶれの小集団であることもあり、人間関係が固定化されやすい傾向が見られる。
〇仕事や作業などへの責任感があるが、主体性に欠ける面もある。
〇自ら課題を持ち、自ら判断して活動したり課題を粘り強く追究したりすることが苦手である。

願 う 姿

〇誰とでも挨拶ができ、他学年の子と遊べる子ども。
〇学習したことや気づきを元に、工夫して粘り強く物事に取り組める子ども。
〇自分の考えや思いを自分の言葉で語れる子ども。

学校教育目標

気づき	考え	やり抜く
思いやりのある心豊かな子ども	自分から考え行動できる子ども	粘り強く最後までやりぬく子ども

地域の様子

南西に中央アルプス、東に南アルプスの山々を望む標高８５５mの高台に位置し、広大な田や畑が広がる地域である。天竜川に向かって流れる深沢川や帯無川の谷沿いには、赤そば畑やヒノキ林など、子どもたちが自然と親しむことのできる場所が広がっている。また、学区内には、花桃街道に沿って赤そば畑や伊那梅苑などがあり、季節によって多くの観光客が訪れる。

明治時代に古田学校として始まり、昭和３４年、箕輪西小学校として箕輪学校から独立して以来、５０年を越える歴史を重ね、現在に至っている。

保護者及び地域の方々は、子どもたち一人一人を家族同様に大切に扱い、学校教育活動への理解も深く、協力的である。地域の方々は、ふるさとを愛する思いを持ち、地域のこれからの担い手としての人材を育成して欲しいと願い、保護者の方々は、子どもたちが「楽しい」と思える学校、安全な学校を願っている。

重点目標

重点目標１	重点目標２	重点目標３
だれとでも仲良く支え合える子の育成	課題を持ってやりぬくたくましい子の育成	ふるさとを知り愛する子の育成

〈児童や保護者・地域と共に歩む職員〉

〇授業改善
- 少人数を生かしたきめ細かな指導と学習形態の工夫
- 個別支援を要する児童への支援の工夫
- 全職員による授業公開

〇学級経営力の向上
- 児童理解を深め、一人ひとりの居場所や存在感のある学級づくり

〇教師としての資質向上
- 児童や保護者の思いを受け止める誠実な姿勢
- 人権感覚を磨く・教育公務員としての自覚

〇地域と共に歩む姿勢
- 保護者や地域の方々との連携
- 地域教材の発掘

【重点活動１】学年枠をはずした活動の充実

〇西小タイムの活用
- 縦割り班活動の充実
- 他学年との集会や学習

〇あいさつの響きあう学校

【重点活動２】

〈全校研究テーマ〉 「わかった」「できた」「やりとげた」と実感できる子ども
～言語活動を充実させて、考える力や表現する力を育む支援のあり方～

〇学力向上
- ねらい達成のための言語活動
- 学び合い
- 少人数を生かした個別指導

〇体力の向上
- 体育集会
- 遊びの時間

〇読書の充実
- 朝読書
- 家庭との連携

【重点活動３】地域の特性を生かした教育活動の充実

〇生活科・えぼし（総合的な学習）の時間の充実
〇地域素材・地域講師の活用
〇適切な評価

〈地域に根ざし 開かれた学校〉

〇学校公開
- 授業参観（年６回実施）
- 学校要覧、グランドデザイン（全体構想）の紹介

〇学校自己評価（外部評価）
- 学校経営の重点の説明
- 保護者、児童、学校評議員、職員による学校評価

〇地域との連携
- 生活科，社会科，「えぼしの時間」（総合的な学習の時間）への地域講師の招へい
- 地域の文化・施設の利用
- 人材バンク作り
- わんぱく体験
- 通学パトロール（児童の安全確保）
- 地域の方による読み聞かせ
- 地域行事への参加

特色ある西小の学び

〇異年齢集団による学び合い
行動の仕方・コミュニケーション・支え合い

〇体験を通した学び
思考力・判断力・表現力の育成

〇ふるさとの自然や文化に学ぶ
ふるさとへの想い　地域社会に生きる自覚

お花見給食　よもぎ採り　全校カレー会　もみじ給食　赤そば祭りへの参加　落ち葉集め　スケート学習
なかよし読書　古田人形クラブ　縦割り清掃　献立作りへの参加　全校歯みがき　マラソン大会　なわとび

箕輪町の学校教育　『ひと味違う箕輪の子』

１グレード・アッププラン　２スタディサポート事業　３国際交流員配置事業　４食育の推進　５読育推進　６キャリア教育の推進　７運動遊び　８ものづくり教育プログラム　９特色ある学校づくり　１０セーフコミュニティー